



# RRCJ

The Resilience Research Council of Japan

一般社団法人レジリエンス協会 メールマガジン

2017.1.11 (号外版)



明けましておめでとうございます。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

本年もレジリエンス協会の活動に、ご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。  
(遅いご挨拶になり申し訳ございません)



## 【目次】

1. 「HUG 体験会」開催ダイジェスト報告  
(2016年12月5日開催)
2. 次回「第24回定例会」開催のご案内  
平成29年1月19日(木) 13:00~16:45  
於；日比谷図書文化館
3. 会員募集のご案内



(次々に来る仮想避難者への対応に追われています)

## 【1. HUG (避難所運営ゲーム) 体験会；ダイジェスト報告】

日時：2016年12月5日(月) 13:30~16:50

場所：日比谷図書文化館

参加者数：16名

協会メールマガジンのバックナンバーは以下からご覧いただけます。

[https://resiliencej.wordpress.com/mtg\\_history/](https://resiliencej.wordpress.com/mtg_history/)

### (1) 『体験会内容・進行説明』

- 今回は参加者16名をA~Cの3グループに別けて進行。  
本日の体験会の説明・進行役である石井洋之氏(静岡大学客員教授/レジリエンス協会会員)からの「HUGの全体説明、進行手順等の案内」からスタートです。



- 訓練の概要がわかったところで、まずは自己紹介を兼ねたアイスブレイク。そして例題(さまざまな避難者15ケース)での予備体験を行い、ある程度のイメージが掴めたところで、短時間ですが各グループで進め方・対応等の検討を行います。



← (HUGの説明)

→ (アイスブレイキングシートを使つての自己紹介)



← (15例題後の進め方・対応検討)

- さあ、体験会開始です。近隣の町内から次々と避難者がやってきます。

以下、参加者のコメントを引用させていただきます。

12月5日、避難所運営ゲーム(HUG)体験会に参加した。  
参加して本当に良かったと思う。理由は、避難所で生活しなければならない事態に対し、自分自身がいか  
に準備できていないかをよくよく認識することができたから、という点に尽きる。  
さて、まずチーム内で自己紹介。その後すぐに「始めますよ～」とゲームスタート。

目の前には避難所となる小学校の見取図。早速「〇〇さん一家が避難所に来ました」とアナウンスが入り、被災者を示すカードを数枚渡される。なるほど、このカードを見取図の上に配置していけばいいんだな。でもどこに？ちょっと待って、まだ何の準備もできてないから！……実際だったら、顔面蒼白かもしれない。あたふたと受付をつくり、通路をつくり、居場所を設定する。  
その間にも被災者はやってくる。みんながみんな、受付ばかりに張り付いてられない。ようやくチーム内で役割分担を決めて動



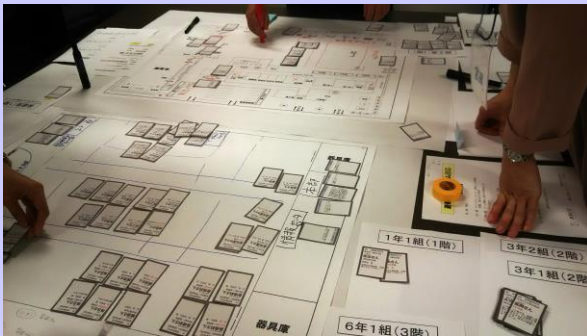


き出した。

次々訪れる被災者を華麗に誘導しようとする私たちにまず立ちほだかったのは、トイレが使用禁止だがどうすればいいかという難題だった。

上下水道が使えない。避難所にどのような備蓄があるか、簡易トイレはおろか、ビニール袋一枚あるかどうか不明。しかも、やむなくトイレを使用した人々がいるらしく、トイレが詰まっているとの情報が。実際だったら顔面蒼白確実だ。

迷子の子どものも、お年寄りも、外国の方も、インフルエンザの方も、犬もインコもやってくる。取材が来たり、毛布が届いたり、食べ物が届いたり、給水車も、政府のお役人も来るらしい。対応が追いつかない。

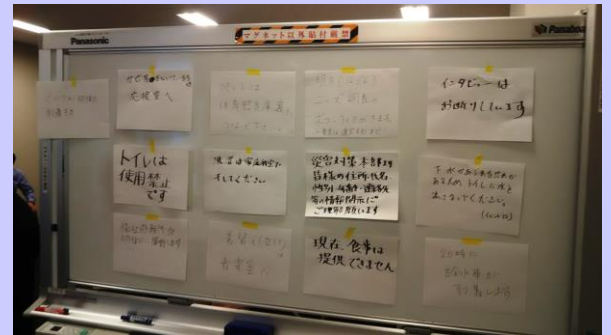


困惑の果てに、避難

してきた被災者からボランティアを募って巻き込んでしまおうという技(?)をひねり出した。けっこう多用した。アナウンス方法は掲示板への張り紙。見てもらえるんだろうか。いささか心もとない。実際だったらそろそろ顔は土気色だろう。

それでも、ゲームであるから救われた。何とか最後のカードの対応まで終わったときにはホッとした。実際だったら、土気色がドドメ色になっていたかもしれないけれど。

とても貴重な体験となった。問題は、この貴重な体験をどれだけの間、切迫性をもって覚えていられるかである。忘れっぽい自分としては、繰り返しこうした訓練に参加したほうがいいかもしれない。機会があれば、ぜひまた参加してみたいと考える次第である。



何となく雰囲気はわかっていただけだと思います。

本当に想定もしなかった避難者が次々にやってきます。

- ・ ペットが一緒 (犬 ; 大型、小型 ; 、猫、小鳥・・・)
- ・ 車椅子の人、ケガをした人
- ・ 風邪 (気味) の人
- ・ 妊婦さん
- ・ 仕事に来ている外国の人
- ・ 親が不明になっている子供
- ・ はたまた、たまたま通りかかり地震にあつて道路通行不明、帰れそうにない観光バスの乗客30人
- ・ . . . . . 色々な人が続々とやってきます。

そうしている間にも種々の問題、トラブルが発生します。

- ・(水が出ない) トイレが汚れてしまっている。
- ・たばこを吸いたいと言っている。どこで吸えばいいか。
- ・30人分くらいの食べ物が差し入れられた。皆に配るにはとても足りない。さてどうする？
- ・車で来たので、車の中で避難していたい。どこに駐車すればいいか。
- ・人を探している。見つけれないか。
- ・はたまたホームレスの人が来て食べ物を欲しがっている
- ・ . . . . .

色々な問題、トラブルに避難所運営委員のあなたはスピーディに対処していかねばなりません。嵐のような避難者の殺到と各種トラブルへの対応は、疑似体験なので1時間半強で終わりになります。

● 振り返り (気づき、良かった点、反省点等)

ここからが、この体験会のもっとも重要な振り返りになります。



(各チームごとの振り返りタイム)



そして、チーム発表による気づきのシェアです。



↑ 振り返りの進行は上田理事：演習研究会座長



(まとめ：石井さん、上田さん)

以上が、HUG体験会の状況です。

● 最後に参加者の皆様のアンケートを紹介致します。

アンケート結果ですが、全体としての評価はまずまずでしたが、進め方・資料等に関する評価は従来演習研究会が数回実施してきた「シナリオ非提示訓練」時の結果と比較するとやや低い結果でした。

今回の「HUG体験会」は研究会としても初めて取り組んだ内容でした。準備は十分に行ってきたつもりでしたが、実際に始めるとやはり進め方等不慣れな点や、当初の目論見と異なったりして、参加者の皆さんには少し説明不足になったところもあったかと思われま

す。「総合的に見て参加して良かったか？」については、まずまずの評価（4.6/5.0）が得られており相対的には参加して良かったと言う方が多かったと言えます。

ほぼ全員の参加理由が「今回のテーマ「HUG」に興味があった」であることから、HUGを知りたくて参加したのと言え、その点ではフリーアンサーでも

- ・ HUG 自体を知ることができた。存在は聞いていたがどんなもんか知らなかった。
- ・ 具体的に発生する避難所での問題がよくわかる。また、災害時にかんがえなければならない問題点（避難所に限らず）がわかる。
- ・ 臨場感を感じられる（どんどん対応しなければ、いけない状況）。
- ・ 災害が発生した時に起こる様々な事象、避難者のパターン等を知ることができ、自分の知識に幅を持たせることができた。
- ・ 気づきを踏まえると楽しい訓練でした。

等々の意見があり、大多数の方に参加した意義があったと考えていただいたものと思っています。

また、改善点や課題については様々なご意見をいただいておりますので参考にさせていただき、もし次回開催することがあれば活かしていきますし、他の訓練・演習実施の際にも十分に反映させていきたいと考えております。

(以上 演習研究会)

- なお今回の HUG ゲーム進行役である石井洋之さんは、1月19日（木）の第24回定例会で『避難所運営ゲーム - HUG ~なぜ避難所運営ゲームは BCP に必要か?~』の講演を予定しています。
- 同じく定例会ではもう一つ別の『帰宅困難者支援施設運営ゲーム - KUG (仮)』の講演もあります。興味のある方はぜひご参加ください。

<次ページ参照>

## 【2. 次回『第24回定例会』開催のご案内】

日 時：2017年 1月19日(木) 13:00 - 16:50

場 所：千代田区立 日比谷図書文化館 小ホール 千代田区日比谷公園1番4号  
(大代表) 03-3502-3340

<http://hibiyal.jp/hibiya/access.html>

参加費：会員；無料

一般；3,000円 会費は当日、会場受付でお支払下さい。

(お釣りが無い様をお願いします。)

事前登録のお願い：会員の方も一般の方も、参加する際には事前登録をお願い致しております。

以下のアドレスにお申込み下さい。領収書が必要な方はその旨お知らせください。当日受付でお渡し致します。

申込登録は ⇒ [http://www.kokuchpro.com/event/rrcj\\_201701/](http://www.kokuchpro.com/event/rrcj_201701/)

### <プログラム>

12:30 - 13:00 — 受付 —

(1) 13:00-13:40 『熊本地震の災対本部関係(仮)』

鈴木進吾、防災科研 災害過程研究部門副部門長

(2) 13:40-14:20 『住宅性能評価・瑕疵保険法人が考える～地震に耐える家』

西山祐幸、株式会社日本住宅保証検査機構 常務取締役

14:20-14:30 休憩

(3) 14:30-15:10 『避難所運営ゲーム - HUG ～なぜ避難所運営ゲームはBCPに必要なか?～』

石井洋之、静岡大学 客員教授

(4) 15:10-15:50 『帰宅困難者支援施設運営ゲーム - KUG(仮)』

新藤 淳、SOMPO リスケアマネジメント株式会社 主任コンサルタント

15:50-16:00 休憩

(5) 16:00-16:40 『内閣府の統合型防災教育(仮)』

竹本加良子、株式会社サイエンスクラフト 代表取締役

16:40 閉会

※ プログラムは今後予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

## 【3. 会員募集のお知らせ】

◎ 当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会に参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

(参考) 個人会員の年会費は10,000円です。年6回程度開催予定の定例会・訓練会等の参加費(1回3,000円×6回)が無料となる他、各研究会(チーム)にも自由に参加することができます。

法人会員(100,000円/年)もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

<https://resiliencej.wordpress.com/aboutus/application/>

=====

※レジリエンス協会のメールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 当協会のメールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

「[info@resilience-japan.org](mailto:info@resilience-japan.org)」

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>

=====